

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	砂古口 雅子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
医療の進歩はめざましく、500g以下で出生した子ども達も延命できる時代となり、残念ながら障害が残る場合がある。従来であれば短命であった難病の子ども達も障害を持ちながら生存できるようになり、重症心身障害児や医療的ケア児は増加している。また、虐待や事故などで心を含めて障害を負うこともある。臨床現場で小児に携わるようになったとき、子ども達の障害の背景にある疾患についての理解を深められるようになること、親子関係を含めた小児の全体像を見ることができ、子ども達の生活障害を改善できる一助となることを目的に、授業を進める。				
授業の到達目標				
1. 小児の定型発達児の発育・発達の特徴を説明できるようになること。 2. 各種小児疾患の原因や病態について理解し、その特徴について説明できるようになること。 3. 1と2で得た知識をもとに小児の作業療法を実践するときの対応について説明できるようになること。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論（主に小児の成長・発育と定型発達について、原始反射と姿勢反射、療育と学校コンサルテーション）			
2	新生児・未熟児の概念と疾患（新生児仮死、未熟児、新生児・周産期異常症状など）			
3	先天異常と遺伝病（主に遺伝と病気について、染色体疾患など）			
4	復習と小テスト①			
5	神経・筋疾患①脳性麻痺（まひの分類と症状など）			
6	中枢神経感染症、重症心身障害児と医療的ケア児について			
7	児童虐待、事故 その他			
8	総復習			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	終了試験の結果によって評価する		
レポート・課題				
小テスト	40%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点	10%	授業への参加態度や予習復習等によって評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第6版	前垣義弘・小倉加恵子	医学書院		
自由記載	必要に応じて、参考資料はプリントにて配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
写真で見る乳児の運動発達、	木本孝子 他訳	協同医書出版社、1998		
ボバース概念の実践ハンドブック	紀伊克昌 他	パンフィックサプライ、2004		
自由記載	必要に応じて、紹介する			
備考				